

# 中間市 ハザードマップ (洪水・土砂災害・高潮)

**保存版**  
見える場所に保管して  
お使いください



Uni-Voice (ユニボイス) アプリでコードを読み取ると音声で内容を確認できます。

### わが家の防災メモ

家族の緊急用データ

家族の名前	血液型	会社・学校の電話番号	携帯電話番号	その他(アレルギー、常備薬、病状)

家族の集合場所

わが家の避難所

福岡県中間市 〒809-8501 福岡県中間市中間一丁目1番1号  
☎093-244-1111 (代表) FAX 093-245-5598

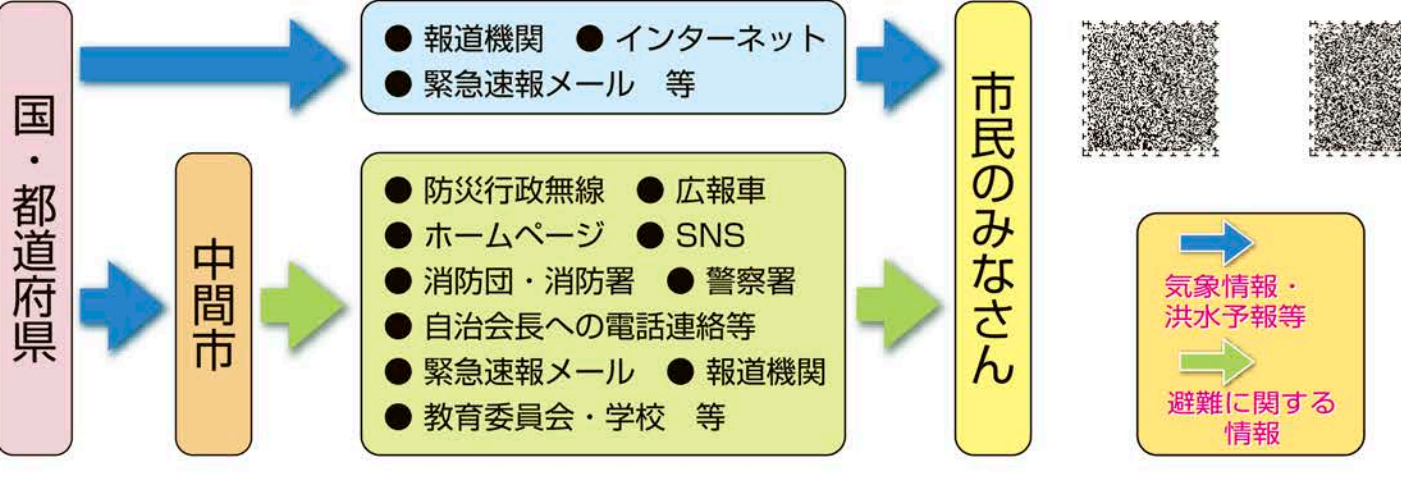
## 避難の心得



### やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

- 長靴や裸足は危険です。運動靴をはきましよう。
- 長い棒を杖代わりにして、水の中の障害物に注意しましょう。
- マンホール等のふたが開いている場合があります。
- 歩ける深さの目安は膝下までです。流れが速い場合は非常に危険です。
- はくれないようにお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。
- 切れた電線など、危険な場所には近寄らないようにしましょう。

## 情報の伝達経路



## 《情報の種類・入手方法》

- なかもコミュニティ無線確認ダイヤルサービス 050-5578-2624**
- テレビのデジタル放送**
- 緊急速報「エリアメール」/緊急速報メール**
- 福岡県防災アプリ まるくん**
- 福岡県防災ホームページ**
- 福岡県総合防災情報ホームページ**
- 気象庁防災情報ホームページ**
- 国土交通省 川の防災情報**
- 九州電力送配電株式会社ウェブサイト**

## 洪水・高潮

### 洪水

洪水とは大雨によって、川の水量がふだんより、いちじるしく増えた状態を言います。

- 外水氾濫**: 雨などによって、川から街や農地などに水があふれることを「外水氾濫」といいます。
- 内水氾濫**: 川から水があふれたのではなく、街や農地に降った雨がそのままたまてあふれることを「内水氾濫」といいます。

### 洪水浸水想定区域

国土交通省及び都道府県では、想定し得る最大規模の降雨により洪水予報河川及び水位周知河川が氾濫した場合に、浸水が想定される区域を洪水浸水想定区域として指定し、浸水した場合に想定される水深を洪水浸水想定区域図として公表しています。

### 家屋倒壊等氾濫想定区域

想定最大規模の降雨の場合に、家屋が倒壊するような氾濫流や河岸浸食が発生するおそれが高い区域です。この区域では、洪水時には河川から離れた安全な場所へ、早めの避難を心がける必要があります。

### 高潮

高潮は、台風や発達した低気圧により波浪が発生して、海面の高さが異常に高くなる現象です。気象情報に注意しながら、早めの避難を心掛けましよう。

### 高潮が発生する3つの要因と注意すべき点

【3つの要因】

- ① 気圧低下による海面の吸い上げ
- ② 風による吹き寄せ
- ③ 波浪による海面の上昇

【注意すべき点】

- 高潮時、特に大潮時に発生しやすい。
- 台風接近時は、高潮の発生に警戒する。
- 大雨や暴風により避難が困難になることがある。
- 浸水時には、暴風雨のなか、濁流と漂着物で歩行が困難になる。
- 浸水時に自動車で避難することは大変危険である。

防災行政機関 国土交通省 遠賀川河川事務所中間出張所 TEL 245-0154 FAX 245-0160 宗像・遠賀保健福祉環境事務所 TEL 0940-36-2045 FAX 0940-36-2592 北九州県土整備事務所 TEL 691-2761 FAX 692-9479 折尾警察署 TEL 691-0110 FAX 691-0110 中間市消防本部・消防署 TEL 245-0901 FAX 246-0119 ライフライン機関 中間市環境下水道部(水道) TEL 246-6264 FAX 245-0542 西宮ガス(株)供給管理センター TEL 591-6611 九州電力送配電(株)八幡配電事業所 TEL 0800-777-9400

## 「正しい避難行動」と「分散避難」について

### 《避難とは「難」を「避ける」こと》

#### 正しい避難行動

自然災害は年々激甚化し、危険を伴う避難によって命を失う事案も発生しています。今一度、避難のタイミング、避難場所など「正しい避難行動」を確認してください。また、学校等の避難所に行くことだけが避難ではありません。避難所は共同生活の場となり、普段とは違う生活の中でストレスがかかります。避難所以外の場所に避難する「分散避難」も検討してみてください。

#### 分散避難

「避難所」での生活は、心身にストレスがかかる他、多くの人が密集すると、様々な感染症が広がるリスクがあります。避難先として「避難所」への避難以外にも「親戚・知人宅」「ホテル」※1「在宅避難」※2「車中泊」などさまざまな避難先に、分散して避難することが大切です。

※1「在宅避難」は危険から身を守るために自宅等の2階以上へ「垂直避難」し、命が守れるか事前確認が必要です。

※2「車中泊」は、浸水リスクがある場所を避け、安全な場所が確保できれば可能です。その場合は、エコノミークラス症候群や感染予防として、定期的な運動や換気を行う必要があります。避難所の駐車場で車中泊避難を行う場合は、避難所内にいる担当者に声をかけてください。

○複数の避難先を想定しておきましょう

まずは、自分の地域の指定避難所を確認しましょう。災害の種類によっては適合、不適合がありますので事前に確認しておきましょう。また、親戚や知人等とも日ごろから災害時の避難について話し合い、避難先として協力してもらえるかなどを確認しておきましょう。

## 災害発生時、家族の安否を確認

### 被災地域内と他の地域を結ぶ声の伝言板「災害用伝言ダイヤル171」

利用ガイダンスにしたがってご利用ください

伝言の録音方法 伝言の再生方法

1 171にダイヤルする  
ガイダンスが流れます

2 録音する場合は  
1 確認番号を利用する番号は「3」  
ガイダンスが流れます

3 被災地の方などの電話番号、携帯電話番号をダイヤルしてください  
市外局番からダイヤルしてください

1 171にダイヤルする  
ガイダンスが流れます

2 再生する場合は  
1 確認番号を利用する番号は「4」  
ガイダンスが流れます

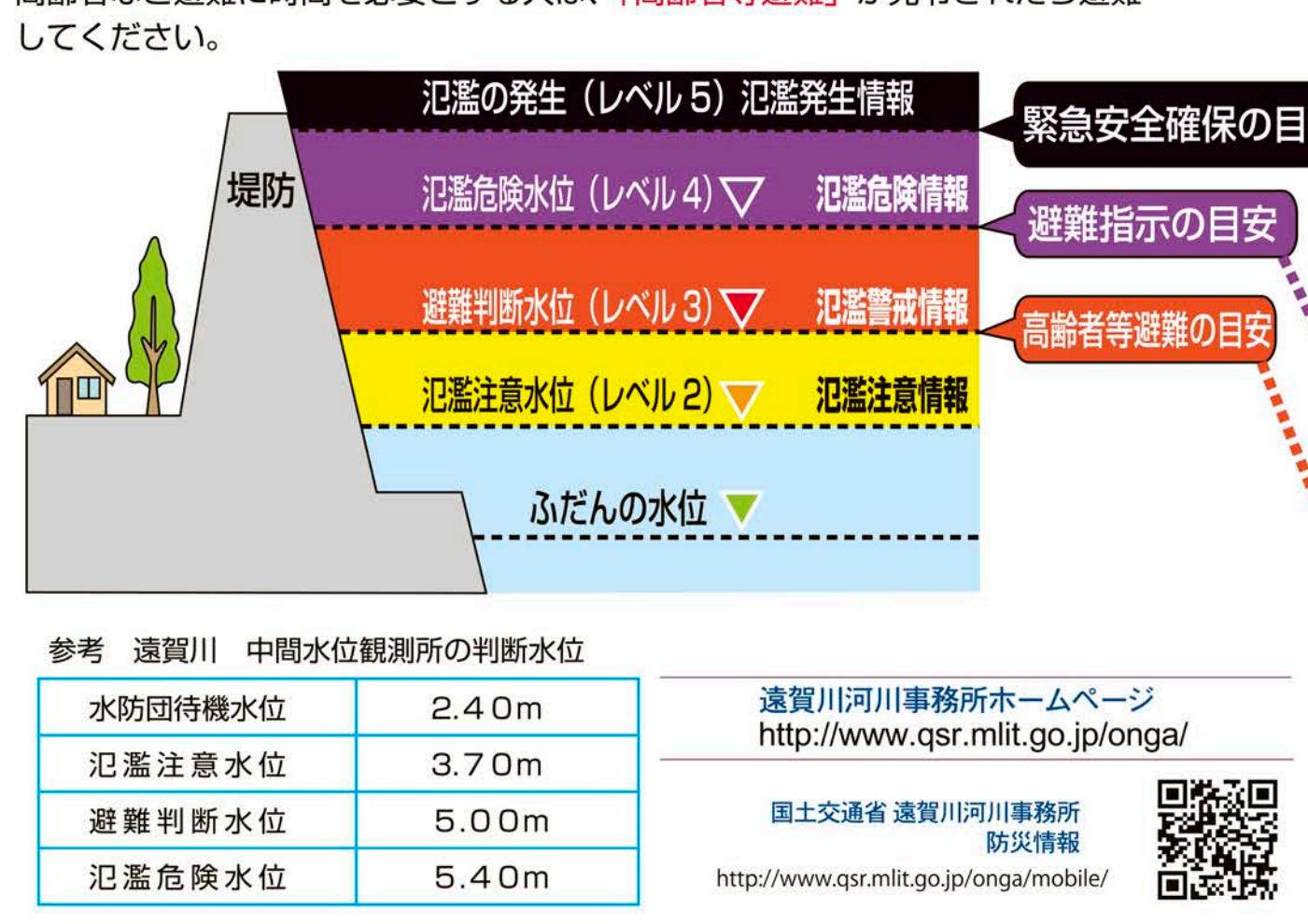
3 被災地の方などの電話番号、携帯電話番号、IP電話の電話番号をダイヤルしてください  
市外局番からダイヤルしてください

3 画面の指示に従って、文字による伝言を追加録音してください

## 情報の種類と住民に求める行動

### 《洪水に関する河川情報と避難判断の目安となる水位》

洪水に関する避難の情報は、下記の水位を目安としますが、気象状況等を総合的に判断し、市が発令します。「避難指示」などが発令されるときは、堤防決壊や越水の危険性が高まっていますので、すぐに避難しましょう。また、高齢者など避難に時間を必要とする人は、「高齢者等避難」が発令されたら避難してください。



### 自主避難について

危険を感じたらすぐに避難しましょう

局地的集中豪雨のような、突発的な異常気象の場合には、市からの避難情報が間に合わないケースもあります。その際には、身の危険を感じたら安全な場所にいる家族や知人の家、避難所などへ自主的に避難しましょう。

※避難所等の開設状況は、市のホームページなどで確認してください。

中間市役所ホームページ <https://www.city.nakama.lg.jp>

中間市役所公式 Facebook <https://www.facebook.com/city.nakama.lg.jp>

## 《避難情報と住民が取るべき行動》

災害が発生したり、発生の可能性が高まったりした場合、中間市は避難情報を発令します。しかし、避難情報が発令されない状況でも、自らの判断で避難をすることもあり得ます。自分の安全は自分で確保する姿勢が重要です。

警戒レベルを理解して「いつ避難するか」を考え、行動しましょう。

警戒レベル	警戒レベルに相当する気象情報	市が発令する避難情報	取るべき避難行動
警戒レベル5	大雨特別警報 キケル(危険度分布) 「災害切迫」	緊急安全確保	<b>災害発生</b> 命を守るための最善の行動を！ 既に災害が発生して安全な避難ができない状況です。
警戒レベル4	土砂災害警戒情報 高潮警報 キケル(危険度分布) 「危険」	避難指示	<b>災害のおそれ高い</b> 危険な場所から <b>全員避難</b> ！ 避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内より安全な場所へ避難しましょう。
警戒レベル3	大雨警報 洪水警報 キケル(危険度分布) 「警戒」	高齢者等避難	<b>災害のおそれあり</b> 避難が必要な <b>高齢者等は避難開始</b> ！ 避難に時間を要する人(高齢の方、障がいのある方、乳幼児等)は避難を開始しましょう。その他の人は避難の準備をしましょう。
警戒レベル2	大雨注意報 洪水注意報		<b>気象状況悪化</b> 避難行動の確認をしましょう。
警戒レベル1	早期注意情報		<b>今後気象状況悪化のおそれ</b> 災害への心構えをしましょう。

※大雨警報などの気象情報が発表されても、市から避難情報が必ず発令されるものではありません。気象情報を参考にして、河川の水位や災害の危険度などをみて発令します。また、警戒レベルの順番で情報が出るとは限りません。状況に応じた柔軟な対応が重要です。

## 土砂災害

大雨や台風、地震が起きたときには、地盤がゆるみ土石流やかけ崩れ、地すべりといった土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。また、土砂災害には前兆現象があります。前兆現象を感じたら速やかに避難するようにしましょう。

### 《災害の種類と前兆現象》

災害の種類	前兆現象
かけ崩れ	突発的かつ短時間で起こる かけ崩れとは、地中にしみ込んだ水が地盤を弱め、雨や地震などによって急激に斜面が崩れ落ちることです。
土石流	破壊力が大きく、速度が速い 土石流とは、山や谷の土砂が大雨などによって、ものすごい勢いで流れてくることです。
地すべり	種やかな斜面でも起こる 地すべりとは、斜面が地下水の影響などによって滑りやすい地盤を境にスルスルと斜面下方に移動する現象です。

次のような前兆現象を感じたら速やかに避難するようにしましょう。

● かけから出る水が濁る。	● 山鳴りがする。	● 地面にひび割れができる。
● かけに亀裂が入る。	● 川が濁ったり、流木が混じりはじめる。	● 地面の一部が陥没したり、隆起したりする。
● 小石がバラバラ落ちてくる。	● 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる。	● 沢や井戸の水が濁る。
● かけから音がする。		● 斜面から水がふきだす。

### 《状況に応じた避難方法》

- **立退き避難**  
避難所や高台、土砂災害警戒区域・特別警戒区域外の安全な場所に移動します。
- **近隣の高い建物等への避難**  
立退き避難が難しいときは、近くの頑丈な建物の2階以上や、高い建物のおそれなく上層へ移動します。
- **屋内の安全な場所への避難**  
立退き避難ができていない場合は、なるべく高い階の部屋などに移動します。